

一般社団法人日本脊椎脊髄病学会

平成31年度第1回 理事会 議事録

【開催日時】平成 31 年 3 月 30 日(土) 13:00~16:00

【開催場所】パレスサイドビル 2F マイナビルーム 2F-X

【出席した理事】大川 淳、西良浩一、島田洋一、高相晶土、種市 洋、千葉一裕、永島英樹、
中村博亮、中村雅也、長谷川和宏、前田 健、松山幸弘、山下敏彦、渡辺雅彦

【欠席した理事】川上 守、山田 宏

【出席した監事】加藤文彦、小西宏昭

【議事の経過の要領及びその結果】 中村博亮理事長は定款の定めにより議長となり、開会を宣言し、直ちに議事に入った。

審議・決議事項

1. メンバーシップ・コンプライアンス委員会より：会員審査(1-3月分)

島田理事から説明があり、1~3月の入退会について全員承認された。

2. 財務委員会より：平成 31 年度予算案

千葉理事から、会費収入についてはおおむね例年通りであるが、会誌発行事業の広告収入が 2020 年 1 月からの JSR 電子化にともない例年の 11 か月分となること、指導医収入は今年の更新者実数から計算したことが報告された。一方、学術集会収入・支出ともに例年に比べて増加、委員会支出は例年通りであるものの、Spine Across the Sea 関連分の支出は無い一方で用語辞典の発行、広報委員会の WEB リニューアル、顧問税理士の増員(1 名から 3 名)により総支出は増大する予定であることが報告された。以上について審議の結果、平成 31 年度の予算案として承認された。

3. 大正富山 AWARD 選考委員会より：大正富山 AWARD 受賞者の件

理事長より選考委員会で 2 名の候補者が選出されたことが報告され、満場一致で受賞者 2 名を承認した。

基礎部門 ^{ふるやまさゆき}古家雅之(大阪労災病院)

Direct cell-cell contact between mature osteoblasts and osteoclasts dynamically controls their functions in vivo (Nat Commun. 2018 Jan 19;9(1):300)

臨床部門 ^{だいまんけんし}大門憲史(荻窪病院)

A 20-Year Prospective Longitudinal Study of Degeneration of the Cervical Spine in a Volunteer Cohort Assessed Using MRI Follow-up Cross-Sectional Study

(The Journal of Bone and Joint Surgery 2018; 100:843-9)

4. 名誉会員の推薦

理事長から候補者3名の推薦があり、全員を評議員会に推薦することとした。

- ・ 田口敏彦先生（山口労災病院）
- ・ 徳橋泰明先生（日本大学医学部整形外科学系整形外科学分野）
- ・ 出沢 明先生（帝京大学、向ヶ丘 PED スポーツクリニック）

5. 評議員会・会員総会の式次第・庶務報告

大川理事から評議員会・会員総会の議事次第と庶務報告が提示され、評議員会・総会、両日の席次が確認された。

6. 用語委員会より：用語集の財源と規模と進捗について

高相理事から、用語集の学会での買い取り部数を現指導医分（約1500名）除けば、費用は300万円程度抑えられると報告されたが、学会員間に不公平がないようにすべきであること、通常のJSRとの同封発送が不可能になるなどの理由から、指導医を含めた会員全員に対して無料配布することが承認された。それに基づき、出版社との価格交渉を継続することになった。

7. JSR 編集委員会より： オンライン化依頼企業 JSR 過去論文の管理・運営

オンライン化依頼企業

長谷川理事から、3社（CBR・杏林舎・毎日学術フォーラム）からのプレゼンを受けた結果、一社で査読から出版まで一本化できること、すでに英文誌『SSRR』でも実績があることから杏林舎に決定したとの報告がなされた。合同でJSRを出版している7学会（以下、合同7学会）の了解も得たことも併せて報告された。

杏林舎への依頼業務は、JSSR 特集号のOpen journal (OJ) サイトおよび査読システム構築、編集・データ作成、抄録号のOJ サイトおよび査読システム構築、編集・データ作成である。他7学会の編集については、従来と同様に各学会事務局にて査読等の作業を行い、杏林舎へ入稿データを渡す形であると補足説明がなされた。

JSR 過去論文の管理・運営

バックナンバーのWeb掲載に関して、内容物は学会に著作権があるものの、サイト自体はCBRが制作・管理しており、契約終了後は使用不能であることが前回理事会に引き続き再度説明がなされた。現在と同様のライブラリーサイト構築には、1000万円以上の経費がかかるとの見積りがCBR以外の2社からも出されたため、さらに低費用の方法を検討することとなった。

メテオ社によるメディカルオンラインでは10年分までは掲載無料で、今年で10巻となる『JSR』は全巻無料掲載となり、それ以前の雑誌20年分の見積りは約50万円であり、「契約期限3年」として前向きに契約を進めていくことになった。

オンライン化により、『JSR』とともに同封していた紙媒体の送付が困難となるため、会員への学会からのお知らせはすべてメールベースに変えていくことが承認された。

8. その他

JSR 編集委員会より：学術集会演題査読システム・抄録編集の JSR への統合について

学術集会の抄録集（『JSR』3号）の査読システムや編集、当日利用するアプリを一括して杏林舎へ委託することが承認された。抄録集の印刷・発送の可否については次回の理事会で審議予定。

審議・報告事項

1. 財務委員会より：平成 30 年度決算の件

千葉理事より、おおむね例年通りの会費収入、指導医収入があったのに対し、新技術評価検証委員会、国際委員会、英文誌編集委員会および専門医制度委員会で会議・作業増大に伴う支出増について、さらに加藤、小西両監事の監査を受けたとの説明があり、承認された。

2. 委員会報告資料確認

「委員会報告」が提示され、各委員会担当理事から提出された資料について説明があり承認された。

指導医制度は日整会の脊椎脊髄病医の資格証明書が要件になっているが、他学会の認定資格が要件となる例は稀であることから、指導医制度委員会で検討されることになった。

3. 大正富山 Award が【大正 Award】に名称変更する件

理事長より、「大正富山 Award」が大正富山医薬品株式会社の社名変更に伴い、「大正 Award」となったことが報告された。

4. 用語委員会より：用語集の財源と規模と進捗について

審議事項にて報告・検討済

5. データベース委員会より：ACR・胸椎 XLIF/頸椎人工椎間板

種理事より、頸椎人工椎間板に関する PMS 後の学会データベース構築について説明があり、承認された。ACR・胸椎 XLIF に関するデータベースの研究計画書と承認書についても説明された。

6. 倫理委員会より：

倫理委員会の今後の方針について

永島理事より、法律担当の委員交代に伴う倫理審査の方針変更はほぼないものの、ほとんどの研究が倫理委員会審査の対象となる点、およびインフォームドコンセントに関してオプトアウトの書式も準備されることが報告された。

平成 31 年度第 2 回倫理委員会の報告

「頸椎人工椎間板置換術手術のデータベース構築に関する研究」

データベース委員会の報告通り、「頸椎人工椎間板置換術手術のデータベース構築に関する研究」が承認された。

7. JSR 編集委員会より：JSR 編集委員会変更について

長谷川理事より、JSR 編集委員会委員に関して、日本低侵襲脊椎外科学会の担当が岩井整形外科内科病院の高野裕一先生に変更となったことが報告された。

8. 新技術評価検証委員会より：平成 30 年度第 4 回委員会報告

渡辺理事より、ヘルニコアの新認定施設等について委員会にてチェックする予定であること、XLIF と ACR について手術のガイドラインを再作成したことが報告された。これに関して、ガイドラインのなかの「5) 実施施設基準」の B について、消化器外科、血管外科、泌尿器科医「すべてが常勤」でないと施設として認められないという点について質問があり、その通りと回答された。また ICU の要件により、プロクター施設の一つが要件を満たさなくなり、プロクター施設から外れることが報告された。

以上

平成 31 年 3 月 20 日

一般社団法人日本脊椎脊髄病学会

議長 理事長 中村博亮

監事 加藤文彦

監事 小西宏昭